

日本労働年鑑 第26集 1954年版
The Labour Year Book of Japan 1954

第二部 労働運動

第五編 労農政党

第三章 社会党再建派

社会党再建派の性格と主張

社会党再建連絡全国連絡会(再建派)は、前社会党代議士、足立梅市、和田敏明氏を中心に、前社会党東京都連青年部書記長、中橋義夫氏ら(いずれも社会党を除名された人たち)によって組織された連絡会であるが、主として社会党幹部の批判を通じて、この「愛国分子」と共産党、労農党との統一戦線の結成を呼びかけ、とくに左派社会党の左翼批判者としての役割を果たしている。つぎの文書は、再建連絡会の生立ち、その性格、主張をよく示しているので全文をかかげる。

(社会党を売国の党にするな)

社会党再建連絡会は、社会党ができてから今日まで、口さきだけの社会党でなく、ほんとに闘う社会党に！ アメリカや売国反動どもにとりひきして大衆をだます社会党でなくアメリカや売国反動とていつの日に闘い大衆のために献身的に闘う社会党に！ 労働者の賃上げ闘争をサボリ、会社となれあう社会党でなく！ 労働者の先頭にたって闘う社会党に！ 地主や農村ボスとぐるになって農民の上にあぐらをかいた社会党でなく、土地とり上げに反対し、農民の土地と仕事を守って闘う社会党に！ 中小企業の味方のような顔をして実際は何もやらない社会党でなく、戦争のための重税に反対し、平和産業を興し、自由な貿易をさかんにする社会党に！ するために闘ってきました。ところが社会党内の売国的な幹部はついに昭和二十四年八月足立梅市、和田敏明の両代議士を先頭に愛国派を除名してしまいました。

国鉄の大量首切りに対し、(1)党本部の態度は消極的で、あたかも首切りを認めるようだ。(2)国鉄の悪質幹部と結んで国鉄労組の分裂工作に協力していることに反対する。(3)自由党の連立政府に応ずるような態度は止めるべきである、と主張したからです。社会党の売国的な幹部は愛国と大衆の利益を守ろうとするこの正しい主張を拒否しました。

再建派の運動はこのときから始まりました。講和運動のときも、破防法というひどい弾圧法反対闘争のときも、本当に闘いあるいは闘おうとした人々は、足立氏や和田氏と同じように次々に除名されたり、圧迫されました。

埼玉県連合会長代理の富岡義一氏は平和ヨーゴ委員会に関係しているという理由で除名され、東京都連青年部書記長中橋義夫君は「平和の鐘」という機関紙を出して活発に闘ったために除名され、神奈川県連会長飛鳥田氏は良心派であるために本部

からひどい圧力をうけました。

社会党は講和批准のさい総評、日農、社再派を中心とする国民大衆の大きな圧力におされて左右に分裂しました。労働者、農民、中小企業者は社会党左派に大きな期待をかけました。しかし、いま国民大衆は「なーんだ、左派も右派も同じものじゃないか」といっています。まったくそのとおりです。ただ違うところは「左派」が右派より口だけは非常に景気のよいことをいうだけです。これは苦しい生活の中で日本民族の敵はアメリカと売国反動だということを知った労働者や農民を、革命的な方向に進まぬようにおさえておかねばならぬからです。結局、「左派」幹部と右派幹部は、いろいろ違った国民の声を分担しておさえているだけで、もともとは同じものであり、かれらのご主人はアメリカと売国反動なのです。かれらは国民の中におくりこまれた民衆の敵です。「左派」幹部は革命的な言葉や、はったりの行動で大衆の目をくらましているだけにもっとも悪質です。しかし国民大衆は彼らからいつまでもだまされていません。労働者、農民、進歩的中小企業者はかれらの本性がなにかということをいま、はっきり知っています。

かれらは平和を叫びながら、アジア太平洋平和会議への参加をこぼんでいます。かれらは中日貿易を唱えながら、北京に代表を送ることを断っています。かれらは売国反動と行動を共にして共産党を攻撃しています。

日本を植民地にし、アメリカのために再軍備をやろうとしているアメリカと売国反動どもは、共産党が独立と平和のためにようしゃなく闘うのがこわいのです。だからつくりごとや、ウソっぱちをならべてデマ宣伝をやるのです。社会党の左右幹部は売国反動と同じ穴のムジナですから共産党を攻撃するのです。共産党は国民のための忠実な働き手であり、「独立と平和」のために闘う社会党の友なのです。

社会党の再建連絡会は独立と平和のために闘う政党は心をつつにして、民族統一戦線を固めて行く中心にならなければならないと考えます。

そのためには、左右社会党の中におくりこまれた売国幹部に対して一かけらの妥協もなく断固として容赦なく闘わなければ真の社会党の再建はないし、民族統一戦線を結集することはできないと信じます。

社会党内の愛国派はこのことをいま強く感じています。常に愛国派の先頭に立って闘われている松本治一郎氏は売国幹部の妨害をしりめにアジア太平洋平和会議に团长として参加されます。

社会党再建連絡会は、戦争か平和か、独立か植民地かの真ただ中に立って左右社会党幹部の売国行動を心から憤り、全国の愛国的社会党の同志諸君と共に、愛国と真の社会党再建のために公然と闘いを進め、高々と旗を上げました。

全国の愛国的社会党、労農党の同志諸君！
全日本の労働者農民、中小企業者諸君！
独立と平和と民族統一戦線の旗の下に結集せよ！
一九五二年八月一日

社会党再建派全国連絡会

(基本綱領)

一、アメリカ占領制度の撤廃と国内売国反動勢力打倒のために闘い、平和と独立と民主主義の確立を期する。

一、占領制度の撤廃と売国反動勢力に反抗し、戦争に反対しているあらゆる力を結集して国民統一戦線を達成し、民族解放連合政府をつくる

一、日本社会党の上層幹部のフハイ、ダラクと国民の結集をハカイする裏切り工作を紛砕し、正しい社会党の再建を期する。
一、戦争収奪とファシズムに苦しむ労働者、農民および一般大衆の具体内要求をとりあげ、生活の安定と自由の獲得のために闘う。

日本労働年鑑 第26集 1954年版

発行 1953年11月20日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1954年版(第26集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
